

平成 27 年度 環境省委託業務

平成 27 年度瀬戸内海における  
漂流ごみ実態把握調査業務  
報 告 書

平成 28 年 3 月

内外地図株式会社

平成 27 年度 環境省委託業務

平成 27 年度瀬戸内海における  
漂流ごみ実態把握調査業務  
報告書

平成 28 年 3 月

内外地図株式会社

## 目次

第Ⅰ章 調査概要 .....	I-1
I.1. 調査の目的 .....	I-1
I.2. 調査期間 .....	I-1
I.3. 調査の構成 .....	I-1
I.3.1. 漂流ごみに関する実態把握調査 .....	I-1
I.3.2. 漂流ごみに関する現状分析、課題整理 .....	I-2
I.4. 調査フロー .....	I-3
I.5. 調査工程 .....	I-4
第Ⅱ章 漂流ごみに関する実態把握調査 .....	II-1
II.1. 調査方法 .....	II-1
II.1.1. 海域の選定 .....	II-1
II.1.2. 関係機関との調整 .....	II-1
II.1.3. 調査手法について .....	II-1
II.2. 調査の実施 .....	II-9
II.2.1. 調査の概要 .....	II-9
II.2.2. 調査の詳細 .....	II-14
II.3. 調査結果の集計及び考察 .....	II-27
II.3.1. 目視調査の結果 .....	II-27
II.3.2. マイクロプラスチック調査の結果 .....	II-46
II.3.3. 地域性の分析 .....	II-49
II.3.4. 海域ごとの特徴と発生源の考察 .....	II-56
第Ⅲ章 現状分析 課題整理 .....	III-1
III.1. 地域性の分析 .....	III-1
III.2. 関係主体の多様性 .....	III-11
III.3. 季節変動 .....	III-12
III.4. その他課題 .....	III-20

## 第 I 章 調査概要

### I.1. 調査の目的

H26 沿岸海域における漂流・海底ごみ実態調査委託業務（以下「H26 沿岸域調査」という。）では、瀬戸内海にて漂流ごみの現地調査を冬季（2月、3月）に実施した。その後、H26 沿岸域調査の検討会の場で、検討委員から漂流ごみは季節によって総量の変動が大きいと考えられるため、冬季のみの調査に加えて、夏季の調査も行った方が良いとの助言を受けた。

この助言を受けて、本業務では H26 沿岸域調査で漂流ごみの現地調査を行った海域を中心に秋季（夏季は間に合わなかった）に調査を行い、H26 沿岸域調査で行った漂流ごみ調査結果等と比較しながら、季節の変動も考慮にいれた瀬戸内海の漂流ごみの実態を把握することとした。

### I.2. 調査期間

平成 27 年 10 月 5 日～平成 27 年 10 月 17 日

### I.3. 調査の構成

調査は、以下の I.3.1、I.3.2 の 2 項目から構成されている。本調査のフローを図 I.4-1 に、調査工程を表 I.5-1 に示す。

#### I.3.1. 漂流ごみに関する実態把握調査

H26 沿岸域調査で漂流ごみの現地調査を行った海域を対象として、下記の手順に基づき、漂流ごみの目視・採集調査を実施した（大型の漂流ごみは目視調査、マイクロプラスチックは採集調査を実施）。

##### (1) 調査実施海域の選定

H26 沿岸域調査で漂流ごみ現地調査を行った海域（7 海域）の中から、環境省担当官と協議のうえ、調査実施海域（6 海域）を決定した。

## (2) 調査の実施

(1)で選定した調査実施海域それぞれにおいて、船舶からの目測等による漂流ごみの量(個数)、種類について観測し、その結果を記録した(各海域2日間程度)。その際にはGPS等を用いて漂流ごみの位置を正確に記録した。

また、目測が難しいマイクロプラスチックに関しては、プランクトンネット及び濾水計を用いて調査した。

なお、調査方法については、H26沿岸域調査及び平成26年度沖合海域における漂流・海底ごみ実態調査委託業務(以下「H26沖合域調査」という。)の調査方法を基準に、環境省担当官と協議のうえ決定した。

## (3) 結果のとりまとめ

上記(2)で得られたデータについてを以下のことについて整理した。

- ・瀬戸内海の秋季における漂流ごみの総量(組成を含む)と密度の推計
- ・これら海域における漂流ごみの特徴(地域的偏在を整理。また、量、組成等について、H26沿岸域調査と比較。季節別・出水時の変動についても考察。)
- ・(2)で収集した情報と海域の海流、潮流、河川の流入量の情報等に基づく発生源(ごみの発生量、種類を含む)の考察

### I.3.2. 漂流ごみに関する現状分析、課題整理

上記(1)の調査結果並びにH26沿岸域調査及びH26沖合域調査の漂流ごみ現地調査の結果を踏まえて、地域性(限られた地域の問題であるか否か)、関係主体の多様性(限られた主体の問題であるか否か)、季節変動等の観点から、瀬戸内海の漂流ごみ問題の現状を分析し、課題等を整理した。

#### I.4. 調査フロー

調査フローを図 I.4-1 に示す。

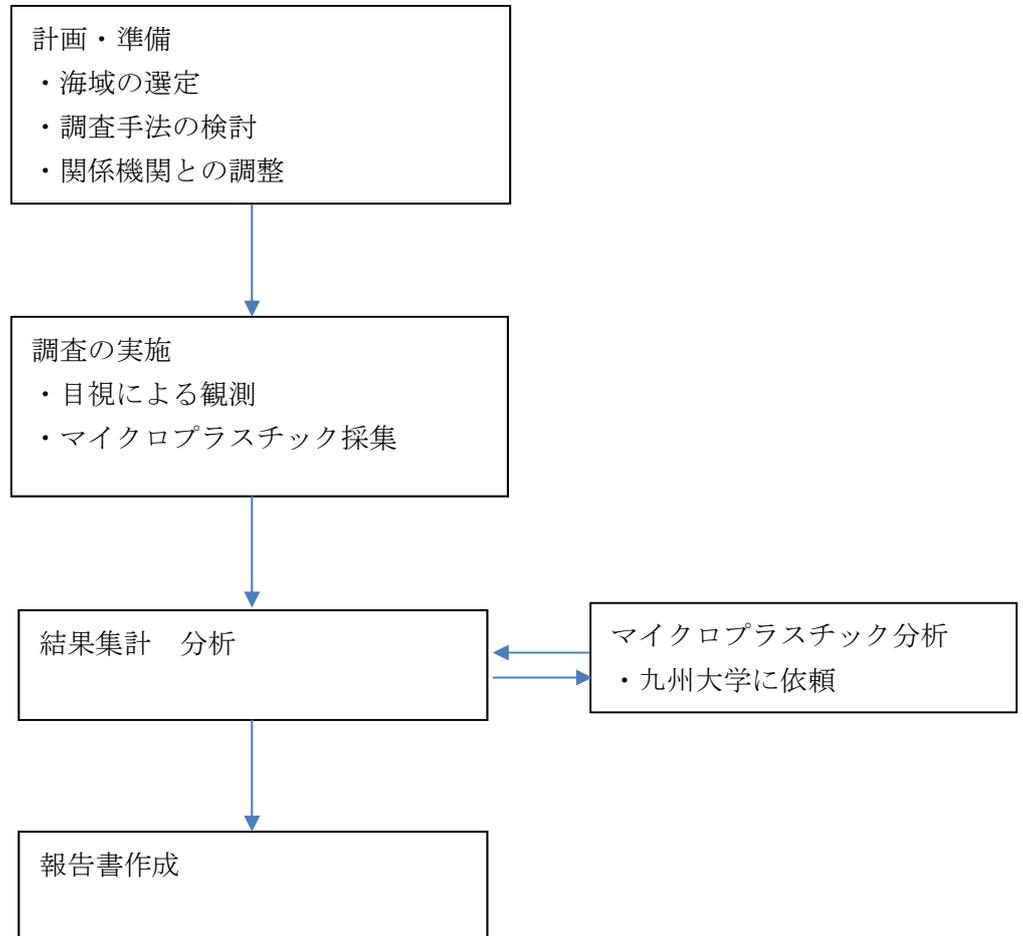


図 I.4-1 調査フロー

## I.5. 調査工程

調査工程を表 I.5-1 に示す。

表 I.5-1 調査工程

工程	平成27年				平成28年		
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画・準備	—						
現地調査		—					
マイクロプラスチック分析依頼			—	—			
結果集計 分析			—	—	—		
報告書作成					—	—	